



ともにあゆみ ともにかがやいた 1年

安全・安心な学校をベースに、子供たち一人一人に寄り添った指導、支援に全力を尽くし、子供たちが、「今日一日楽しかった、がんばった」という満足感を持ち、「明日は学校でこれをしよう」と楽しみに思うような学校となるよう取り組んでまいりました。本校の教育活動に教育パートナー（協働支援者）として御理解御協力をいただき、ありがとうございました。

自立と社会参加 特別支援学校は児童生徒の自立と社会参加を目指しています。社会参加というと、社会に出て働くことをイメージされる方が多いと思います。それも社会参加の一つですが、私が考える社会参加とは、家族と生活をする、社会に出て様々な人と関わりをもって生活することと考えます。人と挨拶を交わす、近くの店に買い物に行く、ひとりであるいは仲間とスポーツ観戦や旅行に行くなど、働くこと以外にも社会参加の形は様々あります。

社会参加の目的は、その人が人間関係や興味関心を広げ、将来に渡り楽しみややりがいを見つけ、自分らしく生き生きと生活できるようにすることです。そのためには、好きなことややりたいこと、得意なことがあることはもちろんのこと、それを少しずつ増やしていくことが大切です。ある会社の社長さんから「能力が高く様々なスキルを持っていても、働きたいという意欲がなければ就労維持は難しい。働きたいという意欲があれば作業能力は確実に向上するし、長期就労は可能である。」と伺いました。では、意欲を培うにはどうすればよいのでしょうか？目指すべきは、させられる行動ではなく、自らする行動と考えます。

かがやく姿を追い求める 学校経営計画書の中の〈笑顔〉の項に「自ら学び、考え、達成感があり、確かな成長を育む授業を行う学校」を掲げ、「児童生徒が考えを深め、できたことを実感し、かがやく授業」を目指しています。児童生徒の“かがやく姿”とは夢中の姿、本気の姿と言えます。このことは、知的障害教育の基本の「き」と言えるでしょう。私は、児童生徒も先生方も“夢中になって取り組める学校生活”をつくりたいと考えています。そして、“夢中・本気”の姿をもっと引き出したいと思っています。

清水特別支援学校には、児童生徒の「やった」「できた」「もっとやりたい」の“かがやく姿”があふれています。何事にも主体的に取り組む意欲をもち、好きなことややりたいこと、得意なことがある児童生徒たちは、予測つかない事態に直面しても、ピンチをチャンスに変え、人とよりよく関わりながら、たくましく進んでいってくれることと期待しています。

清水特別支援学校の役割 「清水の良さを伝え、清水を活性化する！」清水には、港がある。豪華客船が寄港する。港まつりではみなとかっぼれを踊って盛り上がる。七夕祭りがある。富士山世界遺産がある。東海道53次由比宿がある。さくらえび、折戸ナスなどの名産品がある。ちびまる子ちゃんや清水の次郎長。エスパルス。はやて223。かつては路面電車が行き交い三保までつながっていた。水上バスで通勤。まだまだ清水は奥深い。

清水を学びに使わない手はない！清水に住んでいる子供たちは、清水の良さをどこまで知っているのだろうか？これからも、清水とともにかがやきたいと思っています。校長 片岡佳美

小学部 ~いつもありがとう 6年生!~

6年生はいよいよ小学部を卒業します。これまでリーダーとして年間を通し「みんなをにこにこにしよう」という気持ちで取り組みました。「にこにこ大作戦! ゴーゴーフアイヤー♪」の掛け声のもと『1年生を迎える会』や『七夕集会』、『おじいさんおばあさんをにこにこにしよう』を企画して活動してきました。『給食感謝の会』では、自分から率先して手伝いに名乗りを挙げ、体育館の椅子を並べたり、入口で挨拶や案内をしたりする素敵な一面がありました。『土曜参観会』では、「保護者の方をにこにこにしよう」と19人が一致団結しステージに挑戦しました。体育館いっぱいに動くダイナミックな発表に、子どもも保護者も笑顔があふれました。

5年生との委員会活動では、校内外の環境整備や、“あいさつ運動”も顔晴(がんば)り、小学部を盛り上げてくれました。

これまで副リーダーとして一緒に活躍してきた5年生は、「今度は6年生にもにこにこになってもらおう」と下級生にも呼び掛けて、小学部全体で『卒業おめでとうの会』を準備しています。当日が楽しみです♪



5年生から下級生に依頼



七夕会場へ1年生を案内



地域の方と一緒に体操



ステージいっぱいに
笑顔の花を咲かせた

「中学部になっても笑顔の花を咲かせよう♪ ゴーゴーフアイヤー♪」

小学部主事 廣 国睦

中学部 ~ありがとうを伝えよう~

3年生はあと数週間で卒業を迎えます。この3年間は、新しいことにたくさん挑戦しました。校内でのキャンプ、学年運動会、清水のじまん弁当とSDGs~清水大好きごみをなくそう作戦~。コロナ禍でなかなか自由に活動できない中、何事にも一生懸命で、いつも学部を中心に動いてくれました。初めての活動にも意欲的に取り組み、楽しんでいました。毎日の朝トレ、掃除、委員会活動などでは、コツコツ取り組むすばらしさを教えてくれました。今まで中学部を引っ張ってくれてありがとうございました。1、2年生も見習っていきたいと思います。その3年生は、お世話になったみなさんにありがとうを伝えるために、何ができるか考えています。さまざまな活動をとおして心を込めてありがとうを伝えていきます。保護者のみなさんには、卒業式で立派な姿を見せたいと思います。

中学部主事 山本月乃



体育委員会 体育館掃除



美化委員会 ペーパー補充

高等部 ～感謝の気持ちを込めて～

3年生は3月8日に卒業式を行い、それぞれの進路先へと進み、社会へと羽ばたいていきます。その卒業を目前に控え、校内を清掃したり、後輩たちが使うものを修繕したりして「学校みんなのために」取り組んでくれています。普段はなかなか手の届かない高所の汚れやクモの巣を取ったり、古くなったベンチを補強してきれいにペンキを塗ったりしてくれました。後輩たちが気持ちよく学校生活を送ることができる環境を作ってくれて、感謝の気持ちでいっぱいになります。



学校に感謝を伝えよう！

3年間の高等部の生活は、日々の学校生活だけでなく、職場実習や作業学習、修学旅行などに精いっぱい取り組んできました。また、この間に培ってきた仲間との絆が深まり、語り合ったり、思いやり気遣ったりする姿もたくさん見せてくれています。そのような姿を見ていると、たくましさや優しさを感じますし、さすがだなと感心しています。



仲間との修学旅行！

3年生はこれから社会に出ていきます。楽しいことがたくさんあると思いますので、思いっきり楽しんでほしいです。そして、高等部で学んだことや仲間のことを忘れず、これからの生活を元気に笑顔で頑張してほしいと思います。

高等部主事 中澤裕司

5年度 高等部3年生（38人） 進路先

生徒一人一人が、自分の将来の生活を考え進路を決めることができました。地域社会の中で、自分らしく生き生きと生活できることを願っています。未来へはばたけ！38人！

| | |
|------------------|--|
| 一般就労（15人） | 株式会社日本平ホテル、新巴川加工株式会社清水事業所、清水製パン株式会社、サーラ物流株式会社静岡事業所、株式会社タキ倉庫、三菱電機株式会社静岡製作所、株式会社ヨシケイ、株式会社アイエイアイ、三明電子産業株式会社、株式会社ふかくら、社会福祉法人清雲会特別養護老人ホーム巴の園、株式会社アサヒセキュリティ静岡オフィス、株式会社駿河生産プラットフォーム、株式会社小糸製作所、株式会社オリエンタルフーズ |
| 就労移行支援事業所（1人） | 株式会社富士山ドリームビレッジ清水ドリームビレッジ |
| 就労継続支援A型事業所（3人） | 社会福祉法人恵和会就労支援ペアワーク、株式会社オノフ、株式会社ウインゲイン |
| 就労継続支援B型事業所（15人） | 合同会社オンファーム おんふあーむ、にじげん静岡、株式会社富士山ドリームビレッジ ラビット清水、ここーと株式会社はーろ、株式会社ウインボンド、株式会社 nanairo、株式会社 nanairo Ginza、特定非営利活動法人しいの木 ワークステーションどんぐり、株式会社美緑 ACE16 清水袖師、株式会社バタフライ・エフェクト キャンバス、社会福祉法人共生会ライク、ここーと株式会社ここーと |
| 生活介護事業所（3人） | 株式会社富士山ドリームビレッジドリームステップ清水 社会福祉法人清水あすなろ福祉会ともの家 |
| 職業訓練校（1人） | 静岡県立あしたか職業訓練校 |

進路指導主事 伊藤省吾

学校給食週間

子どもたちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食生活を身につけるために重要な役割を果たしています。1月24日からの全国学校給食週間に合わせ、本校では、今年は1月15日から19日までを学校給食週間とし、「給食の歴史」をテーマに給食の歴史を振り返り、食べ物や作る人々の思いに感謝し、食べることの大切さについて改めて考える機会としました。



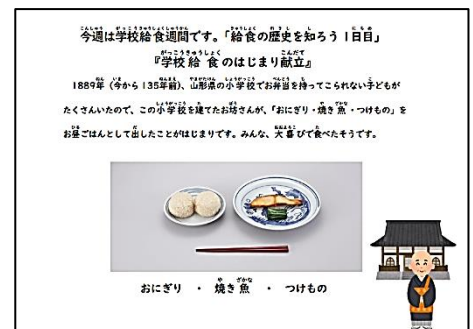
学校給食週間の献立

山形県鶴岡市で給食を持ってこられない子どもたちに用意された「おにぎり・さけ・つけもの」から始まり、給食の歴史が感じられるメニューを栄養教諭の杉山先生が考えてくださいました。小学部低学年では、初期のメニューが意外と人気だったようです。現在は、地場産物を積極的に取り入れ、行事食、郷土料理の提供にも力を入れており、子どもたちも毎日、給食を楽しみにしています。



お昼の放送と献立メモ

給食の歴史が分かるような給食メモを元に、高等部の生徒が、お昼の放送で給食の歴史について説明をしました。小学部では、絵付きの献立メモをみて、「くじら」「おにぎり」と興味を示していました。



給食を感謝会する会

コロナ対策が緩和され、今年は学部ごとに対面での給食感謝の会が開かれ、栄養教諭や調理員さんに直接会い、感謝の気持ちを伝えることができました。小学部では、会が終わりすれ違った調理員さんに「あ、ありがとうございます！」と声をかける児童がいました。また、「給食ができるまで」のスライドを見て、栄養教諭・調理員さんの仕事について知り、中学部では「大変な仕事だな。私にはできないな。」高等部では「こんな早くから作ってくれているのだ。」等感想をもった生徒もいました。

給食主任 小畑栄子

